

Forest 通信 H28 12

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO. 334

巻頭 photo

高尾山の生きものたち

シメ (アトリ科)

この冬も里山や緑地帯で冬鳥のシメを見かけるようになりました。全長18.5cmのこの鳥の冬羽は地味ですが、くちばしの色が夏羽になると鉛色に変わります。プティツとかチチツと鋭い声の地鳴きやツイーと言う弱い声も出します。繁殖期には口笛に似た声でさえするそうですが、残念ながら当地域では聞く事ができません。

当年はこのシリーズをこの鳥でシメさせていただきます。ご愛読ありがとうございました。

今月の一句

「この鳥で 2016 お開きだ」



(フォレストサポートスタッフ 大作栄一郎)

～ヤマコウバシ～



鮮やかに山を染め上げた紅葉も終わり、多くの木々は葉を落す。山は静かな時期を迎えるが、これから春先まで、にわかにその存在を誇示する樹木が、ヤマコウバシだ。

ヤマコウバシは、クスノキ科クロモジ属の植物で、ダンコウバイやアブラチャンなどの仲間であるが特に目立つ特徴もなく、葉の生い茂る夏の時期にはその存在を知らない方も多いのではなかろうか。ところがこのヤマコウバシ、枯凋性（こちょうせい）落葉樹にもかかわらず、秋から冬にかけて枯れた葉が枝から離れない性質、ブナ科・クスノキ科などに多

く見られる）が強く、冬枯れの森林の中で、茶色ではあるが葉をたわわに着けたその姿が大いに目に付くのである。

このヤマコウバシは、クロモジ属で唯一の混芽（こんが）で、ひとつの冬芽の中に葉と花がいっしょに入っている。また、雌雄別株だが雌株しかなく、雌株のみで結実する。雄株の知られていないミステリアスな植物である。

春になったら改めて観察したい植物でもある。葉が落ちないことから、受験の御守りになっているか！（二美）



冬枯れの中のヤマコウバシ



夏のヤマコウバシ